

SUMIFSと複合参照でクロス集計表を作る

売上明細を「エリア×担当者」で見比べる、ナマズさんとフナさんの集計相談

Copyright © 2026 LWP 山中 一弘

本資料は、出典を明記いただければ、商用・非商用を問わず、ご自由に複製・改変・再配布していただけます。なお、著作権表示は改変せず、そのまま記載してご利用くださいますようお願いいたします。

ストーリー

売上の明細は揃ったのに、会議で見たい「エリア別・担当者別」の比較ができません。営業のナマズさんが見たい切り口を伝え、フナさんがSUMIFSで交点を集計する方法を考えます。式を横と下へ広げたあとには、もう一つ確かめることができました。

Excelのテーブルと標準関数を使う、説明用の物語です。図1～6は同じ5件の売上明細を扱い、図7の二つのケースはゼロの意味を比べるための別例です。

1 売上明細を、見比べる表へ

① 売上明細を、見比べる表へ

ナマズさん

フナさん

拠点と担当者を、一目で比べられる？

元の明細は残して、集計表を別に作りましょう。

元データ

エリア	担当者	売上金額
東京	田中	120,000
東京	鈴木	85,000
大阪	田中	95,000
東京	田中	70,000
大阪	鈴木	110,000

集計シート

	A	B	C	D
4		田中	鈴木	佐藤
5	東京	?		
6	大阪			
7	名古屋			

ここが埋まれば、会議の形になるね。

まず、東京と田中の交点からです。

元表は別シートのExcelテーブル『売上データ』

図1 | 元表はExcelのテーブル「売上データ」。集計シートのB5に、東京と田中の交点を求める式を入れる。

2 交点は「東京、かつ田中」



東京 AND 田中		
エリア	担当者	売上金額
東京	田中	120,000
東京	鈴木	85,000
大阪	田中	95,000
東京	田中	70,000
大阪	鈴木	110,000

120,000

+

70,000

=

B5の答え

190,000

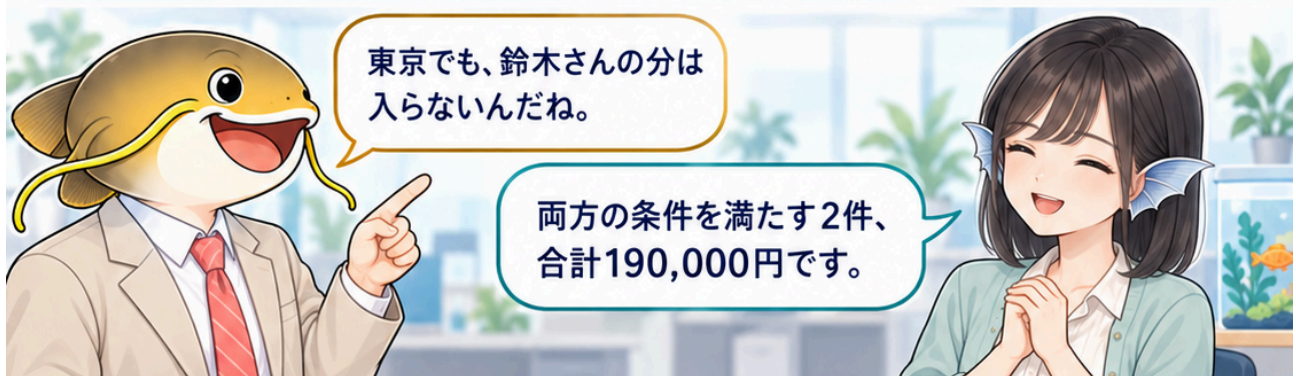


図2 | 二つの条件を両方満たす行を合計する。「東京、または田中」の集計とは異なる。

3 SUMIFSに、三つの範囲を渡す



図3 | 合計範囲を先頭に置き、そのあとへ条件範囲と条件を対で渡す。図は引数の対応図で、貼り付け用の式は記事末尾に掲載。

4 左を見る列、上を見る行を固定

4 左を見る列、上を見る行を固定



全部固定すると、
全部同じ答えに
なりそうだね。

はい、ただし、
固定する場所を
分けます。



\$A5

A列を固定

行番号は動く

B\$4

4行目を固定

列文字は動く

式の場所	エリアの参照	担当者の参照
B5	\$A5	B\$4
C5 (右へ)	\$A5	C\$4
B6 (下へ)	\$A6	B\$4



動かす所まで、
止めないんだね。

そのまま右と下へ
展開できます。



🐟 左を見る → 列固定 / 上を見る → 行固定 🐟

図4 | 複合参照で、固定する方向と動かす方向を分ける。両方を完全に固定すると、交点ごとの条件が切り替わらない。

5 元表の列も、横フィルでずらさない

5 元表の列も、横フィルでずらさない

見出しは固定したし、もう安心？

元表の列にも、確認する所があります。

一列の短い書き方

売上データ[売上金額]

横方向のフィルでは、列指定が動く

今回使う、同じ列を両端に書く参照

売上データ[[売上金額]:[売上金額]]

元表の列を固定

\$A5・B\$4
→ 集計表の見出し

[[列名]:[列名]]
→ 元表の列

左と上だけでなく、
足す列も守るんだ。

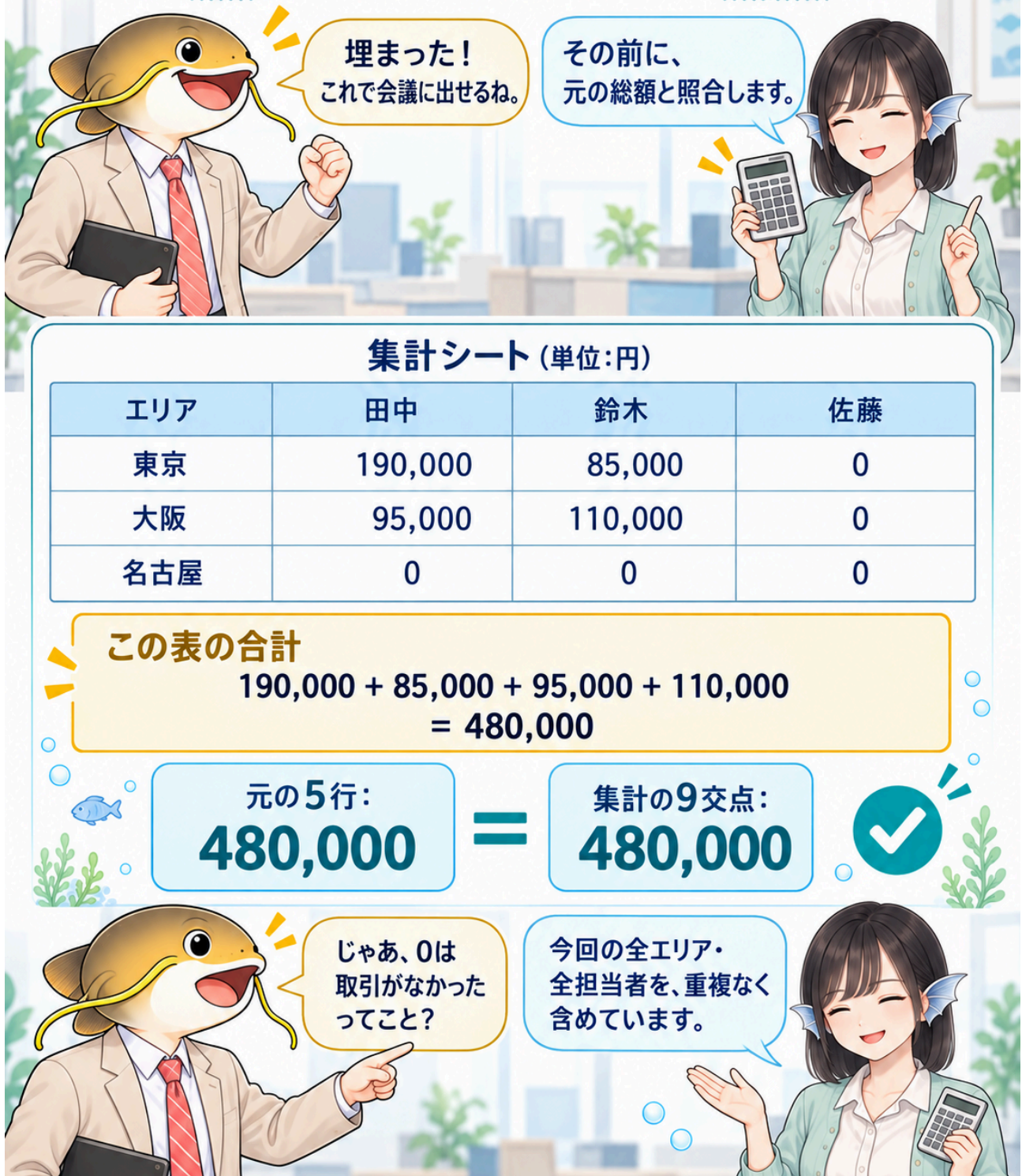
エリア列と担当者列も、
同じ書き方に揃えます。

通常のコピーと、フィルハンドルの横フィルは別の操作

図5 | 集計表の見出しを固定する\$と、元表の列を固定する構造化参照は別の役割。エリア列と担当者列も同じ書き方に揃える。

6 表が埋まったら、総額を照合

⑥ 表が埋まったら、総額を照合



埋まった！
これで会議に出せるね。

その前に、
元の総額と照合します。

集計シート (単位:円)

エリア	田中	鈴木	佐藤
東京	190,000	85,000	0
大阪	95,000	110,000	0
名古屋	0	0	0

この表の合計
 $190,000 + 85,000 + 95,000 + 110,000 = 480,000$

元の5行:
480,000

=

集計の9交点:
480,000

じゃあ、0は取引がなかったってこと？

今回の全エリア・全担当者を、重複なく含めています。

図6 | 今回の見出しは元表の全エリア・全担当者を重複なく含む。総額の一致を確かめ、代表の交点も明細へ戻って照合する。

7 「0円」と「該当なし」は分けて読む

7 「0円」と「該当なし」は分けて読む

合計0だけでは、取引なしとは限りません。

0円の取引があった場合も、0になるのか。

比較用の別例

該当する行がない

SUMIFS :	0
COUNTIFS :	0

比較用の別例

売上0円の行が1件ある

SUMIFS :	0
COUNTIFS :	1



金額を足す : **SUMIFS**



件数を数える : **COUNTIFS**

今回の表と合わせて、件数でも確かめましょう。

次は商品と月でも見たいな。

まず、どちらを縦に並べますか？



**左の条件 × 上の条件
→ 交点を集計**

図7 | 合計が0というだけでは、該当行がないとは判断できない。件数を数えると区別できる。

まとめ

ナマズさんが決めた「エリア×担当者」という切り口を、フナさんがSUMIFSの二つの条件へ置き換えました。左の見出しは列を固定、上の見出しは行を固定し、元表の列指定も横フィルでずれない形に揃えます。

表が埋まったら、元の総額と代表の交点を照合します。ゼロの意味まで説明したいときには、COUNTIFSで該当行の件数も確かめます。次に商品と月で見たいなら、まずどちらを縦・横に並べるかを決めるところから始められます。

今回の仕掛け

SUMIFSは、同じ行で複数の条件を満たす売上金額を合計します。合計範囲と条件範囲は、行数だけでなく対応する行も揃えます。元表をExcelのテーブルにしておくと、テーブルへ追加した行を構造化参照で扱えます。

\$A5はA列を固定して行番号を動かし、B\$4は4行目を固定して列文字を動かす複合参照です。一方、売上データ[[売上金額]:[売上金額]]は、同じ列を両端に指定して、横方向のフィルで参照列が動かないようにします。通常のコピーとフィルハンドルによる横フィルは、構造化参照の調整が同じとは限りません。

集計から漏れた見出しや重複した見出しがあると、総額の照合は崩れます。総額が一致しても、個々の交点の取り違えを見逃すことはあるため、「東京×田中」のような代表例を元の明細と照合します。売上金額は数値で入力し、エリア名や担当者名の余分な空白・表記違いも確認します。

合計0には、該当なし、0円の行、正負の金額の相殺などがあります。表示形式で0を「－」に変えても、その意味は判別できません。図7はこのうち最初の二つを比較しています。

今回の数式のサンプル

数式例 エリアと担当者が一致する売上を合計

```
01 =SUMIFS(
02   売上データ[[売上金額]:[売上金額]],
03   売上データ[[エリア]:[エリア]], $A5,
04   売上データ[[担当者]:[担当者]], B$4
05 )
```

数式の説明

合計範囲は売上金額列です。エリア列が\$A5の値と一致し、担当者列がB\$4の値と一致する行を合計します。三つの構造化参照は同じテーブルのデータ行を指します。

入力・概要

元データ用のシートに、見出しを「エリア」「担当者」「売上金額」の順に置き、次の5件を入力します。見出しを含む範囲をExcelのテーブルに変換し、テーブル名を「売上データ」にします。金額の単位は円です。

- 東京／田中／120000
- 東京／鈴木／85000
- 大阪／田中／95000
- 東京／田中／70000
- 大阪／鈴木／110000

別の集計シートは通常のセル範囲を使います。A4を「エリア」、B4を「田中」、C4を「鈴木」、D4を「佐藤」、A5を「東京」、A6を「大阪」、A7を「名古屋」にします。B5の数式バーへ式の全文を貼り付け、右のD5まで、続いてB5:D5を下の7行目までフィルします。

結果

期待結果は、東京行が190000・85000・0、大阪行が95000・110000・0、名古屋行が0・0・0です。B5:D7の合計は480000となり、元表5件の合計と一致します。これは掲載データと数式の読解・計算による確認で、今回新たにExcel上で実行した測定結果ではありません。

読むポイント

C5の式では担当者の条件がC\$4へ、B6の式ではエリアの条件が\$A6へ変わります。元表の三つの列指定は変わりません。フィル後にこの対応を見れば、どこを固定しているか確かめられます。

数式例 同じ条件に該当する行数を数える

```
01 =COUNTIFS(
02   売上データ[[エリア]:[エリア]], $A5,
03   売上データ[[担当者]:[担当者]], B$4
04 )
```

数式の説明

COUNTIFSには合計範囲を渡しません。エリアと担当者の条件を両方満たす行を1件ずつ数えます。条件範囲と見出しの対応は、先ほどのSUMIFSと同じです。

入力・概要

新しい「件数集計」シートに、売上集計と同じ見出しをA4:D7へ配置します。このシートのB5に式を入力し、右と下へフィルします。元の売上集計の式は残して、金額と件数を見比べます。

結果

元の5件を使うと、東京行の件数は2・1・0、大阪行は1・1・0、名古屋行は0・0・0となり、合計は5件です。図7の「0円の行が1件」は比較用の別例で、この5件に追加したデータではありません。

読むポイント

件数が0なら、この二つの条件に該当する行がありません。合計が0でも件数が1以上なら、該当する明細の金額を確認します。金額と件数を一緒に見ることで、会議でゼロの意味を説明しやすくなります。

出典メモ

- LWP記事元資料「Excelでデータベース形式の表をマトリックス形式に変換する — SUMIFSと複合参照の定番パターン」。SUMIFS・COUNTIFSの掲載式と、売上明細5件を引き継ぎました。

- [Microsoft Support: SUMIFS関数](#)。複数条件による合計と引数の順序を確認しました。
- [Microsoft Support: COUNTIFS関数](#)。複数条件に一致する行の件数を確認しました。
- [Microsoft Support: Excelテーブルで構造化参照を使用する](#)。テーブル列の参照と、コピー・フィル時の調整を確認しました。
- [Microsoft Support: 相対参照・絶対参照・複合参照を切り替える](#)。列または行だけを固定する指定を確認しました。